

大妻女子大学 大塚政子・大森正司・岡本順子 東京農大農 加藤みゆき
川端晶子 図書館情報大 佐々木敏雄

〔目的〕 嗜好は様々な要因により変化する。特に嗜好は食品の有する色、味、香等の風味、又、現在の状況など各種環境要因によつて影響される。近年、日本においては食生活が豊かになるにつれて、食の選択が自由となり、結果として肥満などの栄養失調の多発している事は、皮肉な事と言えらる。これは、豊富な食材料の中で、嗜好の片寄りから来る偏食によることになり、このことと考へられる。本研究では、これらの嗜好の、どの様な要因によつて左右されるかを明らかにするため、言語学的、情報学的手法で調査実験した。

〔方法〕 試料：三井製糖(株)製 シーモア、梅子し、味梅、森永マリー、明治クビティ、ダイジエステックビスケット。パネル：大妻女子大学学生 267人。調査用紙：Ellioの方法を参考に作成した。その嗜好の理由を自由記述法により記述する形式をとった。集計：自由記述された文章中の形容詞、形容動詞につき、嗜好分類表を用いてインデクシング、マークし、これを外国文献社製パスキーで集計した。

〔結果〕 ①嗜好を表現する時「色特性」、「組成特性」、「味特性」、「形状特性」の語彙が多く、この4種で約70%を占めていた。②嗜好を表現する要素のうち最も高い出現頻度は「色の特性」と「材質特性」であり、またこれは連関度も最も高く0.774であった。